



# 学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 24 号

令和 3 年 3 月 17 日 発行

文責 校長 宮地 浩幸

## 卒業式

令和 2 年度の卒業式を 3 月 12 日（金）9:30 から挙行了しました。当日はあいにくの雨だったのですが、厳粛で、心に残る卒業式ができたと思います。唐津市内の中学校はどこでも卒業式が済んでおり、加唐中学校が最も遅い卒業式になりました。本校を卒業するのは、中学校、小学校ともに 1 名ずつです。少人数ではありますが、2 人とも凛とした姿で、卒業証書の授与や答辞を行うことができました。私はこのような少人数で行う卒業式は初めてだったのですが、式辞、送辞、答辞に児童生徒の個別のエピソードや感謝の気持ちが具体的に表れて、感動的で非常に良かったと思います。これまでの卒業式では、話の内容を学年や学校の内容にとどめることしかできず、どこかアバウトな感じがあったのを否めません。勿論それはそれで、良かったのですが、今回のような卒業式ができたのは、私にとっても大きな財産になりました。



学校は 2 名の子ども達が卒業したため、在校生が 4 人になりました。少し寂しい気もしますが、在校生たちも次の学年へ進級し、新たな学校生活を 4 月から迎えることとなります。1 年を振り返り、無事に卒業式を終えることができたことに安堵すると共に、保護者や地域の皆様に感謝するばかりです。

## 令和 2 年度も終わりに近づいてきました。

本年度も修了式を迎える日が近づいてきました。振り返れば昨年の今頃に、井上前校長先生と業務を引き継ぐために加唐小中学校を初めて訪問しました。その時、校長室からの絶景が見事だったこと、そして松島は加唐島と陸続きだと思えるくらい近くに見えたことがとても印象に残っています。

始業式の日、在校生 4 人と初めて対面し、入学式の日、全校児童生徒 6 名がそろいました。壺井栄の小説に「二十四の瞳」がありますが、本校での十二の瞳の輝きがそこにありました。全員が兄弟姉妹のように仲が良く、それぞれの役割を認識して、本当に楽しい 1 年間が過ごせたと思います。そして行事がある前には、ゆうき会で、話し合いを行いました。みんなが学年相当の役を務め、行事の成功に貢献しました。その中に互いを思いやる優しさを感じ取ることができました。

4 月の歓迎遠足では、加唐島の北端カリオ灯台まで行きました。小学 1 年生には少し厳しい行程でした。中学 3 年生が、優しくフォローしてくれる姿は、子ども達のつながりの深さを楽しみ感じること



ができました。この地の雰囲気がかっと子ども達を優しく育てる素地があることに今更ながら気づきま  
す。

学校としては順調なスタートが切れたものの、新型コロナウイルスの影響は加唐島にも及びました。臨時休校、そして島民の皆様と行うはずだった体育大会、文化祭の変更（学校と保育園でしか行うことができず、余儀なくされました。）を余儀なくされました。学校行事だけに限らず、中学生が目標としている中体連の大会も全国大会が中止される中で、地区大会だけが行われるという寂しい1年になりました。子ども達の悔しい気持ちには、心痛するばかりでした。そんな中でも皆が前を向き、出来ることに精一杯全力を尽くす姿は中学生らしく、職員全員で後押しをしました。本校の部活動においては、できるだけたくさんの先生方に関わってもらいました。技術的には、子ども達の方がはるかに上手な部分はありますが、職員と一緒に汗を流すことで、つながりは深まります。子ども達の内からのエネルギーを活性化できたと感じます。

コロナ禍にあって、なかなか思うような、学校経営が難しい状況でしたが、無事に卒業式を迎えることができました。子ども達はほとんど欠席することもなく、元気に登校できたことが何よりの喜びです。加えて、多くの表彰を受けたり、学力向上が数値的に示されたり、学校教育の成果を十分に発揮してくれました。本校の児童生徒たちはすごい力を秘めているんだと誇らしくなります。

本年度、小学生1名、中学生1名がそれぞれ新たな進路へ旅立っていきました。今度は、大きな学校で生活することになります。今までとは全く異なる環境下で生活するため、今は期待や不安でいっぱいではないでしょうか。次のステージは卒業生にとってこれからの長い人生の1つの通過点にしかないのですが、高校や中学は子ども達の成長に大きな影響を与えることは間違いありません。まずは次のステージを悔い無き様に頑張ってもらいたいと思います。その中で、大きな壁にぶつかることも多々あると思います。そんな時に、本校での生活を思い出し、前向きな努力を期待します。私たちはいつでも応援しています。

在校生は、現在中学生1名、小学生3名で毎日元気に学校生活を送っています。4月になれば、みんな進級し、加唐小中学校での令和3年度がスタートします。新入生を迎え、リーダーシップを発揮していかなければなりません。「ライバルは昨日の自分」日々成長できる子ども達に期待します。

最後に、私たちは、県内でも数校しかない離島の学校に勤務することができました。県内の小中学校は全部で250程ありますので、ここに勤務することはかなりまれなことです。私たちはその縁を強く感じます。新年度もコロナの状況はどうなるか見えませんが、不易な学校教育が滞ることが無い様、保護者や地域の皆様の協力を得て頑張っていきたいと思います。



## 次年度に向けて

現在、来年度の本校児童生徒の内訳は、小学1年生2名、小学2年生1名、小学3年生1名、小学5年生1名、中学2年生1名です。全児童生徒数は本年度と同じですが、半数以上は小学3年生以下です。児童生徒の構成がかなり低学年化します。そこで、考えなければいけないことは、まず、行事において体力的な配慮が本年度以上に要するということと競技や演技の出来栄も子ども達の発達段階に応じたものになります。特に体育大会や文化祭においては、小学校低学年の子ども達に合わせた内容が多くなることが否めません。行事に関しては、本校の学年構成にあった適切な内容で行えるよう努力し、子ども達の頑張りが届くよう行っていきたいと思ひます。

特に小学1年生が2名ですので、丁寧に分かりやすく指導することが大切になります。春先になれば、イノシシの危険性や荒天なども考えられます。地域の方々の見守りも宜しくお願いします。

